

# 山口県道路行政マネジメント研究会

ご意見・お問い合わせ

## 国土交通省 中国地方整備局 山口河川国道事務所

〒747-8585  
山口県防府市国衙1丁目10番20号  
TEL(0835)22-1785 FAX(0835)23-8973

ホームページアドレス  
<http://www.yamaguchi-mlit.go.jp/>

## 山口県 土木建築部 道路建設課

〒753-8501  
山口県山口市滝町1番1号  
TEL(083)933-3714 FAX(083)933-3719

ホームページアドレス  
<http://www.pref.yamaguchi.lg.jp/gyosei/doro-k/index.htm>

## 関連ホームページ

### 山口河川国道事務所 道路IRサイト

ホームページアドレス  
<http://www.yamaguchi-mlit.go.jp/ir/>

### 国土交通省 道路局 道路IRサイト

ホームページアドレス  
<http://www.mlit.go.jp/road/ir/>

やまぐち



8つの広域生活圏を網羅するネットワークを整備します。

**広域交流を進めるみちづくり**

待ちのないスムーズで安全な移動を目指します。

**地域の自活を支えるみちづくり**

ぐっときれいに、快適に。人と自然との共生を図ります。

**人と自然と大切にするみちづくり**

中心に人あり。皆さんのニーズをみちづくりに反映します。

**県民参加のみちづくり**



2004-2005

平成16年度達成度報告書

平成17年度業績計画書

山口県道路行政マネジメント研究会

山口県の道路行政マネジメント

# 山口県における道路の課題

## 課題 地域連携の強化

- 分散型の都市構造。
- 広域ネットワーク整備の不足。

中規模の都市が点在しており、分散型の都市構造を形成している。山陰側と山陽側を結ぶネットワークが不足している。

## 課題 山陽側に集中する交通への対応

- 渋滞および事故の集中発生。
- 自動車交通の集中による環境の悪化。
- 利用者の多い旅客施設が集中。

## 課題 サービス水準の確保と安全性の向上

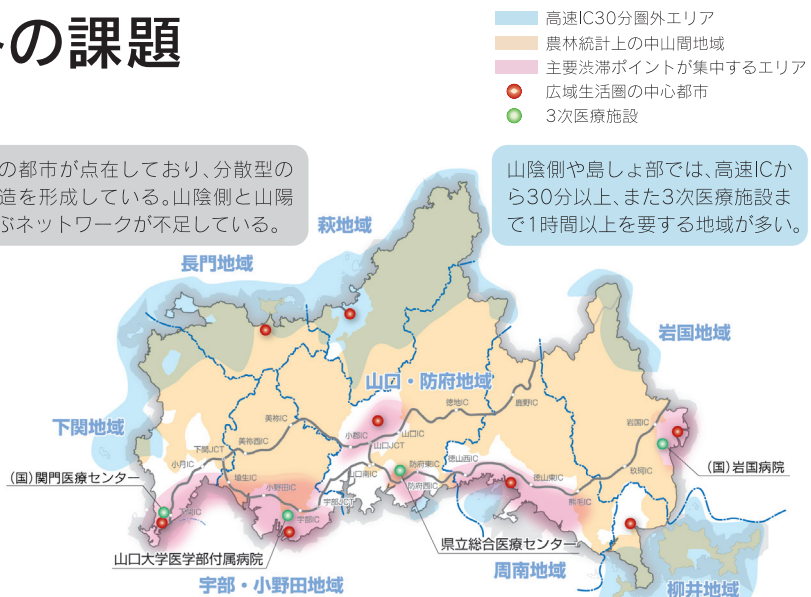
- 低いアクセス性。
- 災害に対する脆弱性。
- 公共交通サービスの不足。

## 課題 住民意向の反映と透明性の向上

- 高い山口県の道路利用者満足度。
- さらなる透明性の確保が求められている。

山陽側の都市部では、事故・渋滞が集中的に発生。都市の交通渋滞はCO<sub>2</sub>の発生要因となっている。

中山間地域では、未改良区間や異常気象時通行規制区間が多く、災害時の交通確保に不安を抱える。



# 成果志向の道路行政マネジメント

より透明性の高い、効果的かつ効率的な道路行政運営へ転換していくために、3つの柱と4つの戦略を掲げ、国民の視点から見た「成果志向の道路行政マネジメント」の実現に取り組んでいます。

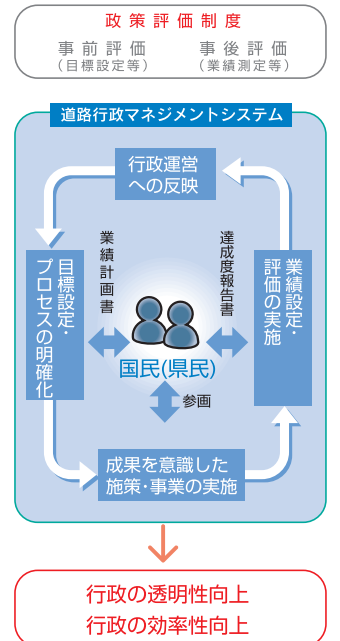
- \*1 アウトカム指標  
道路施策・事業を実施することによって発生する効果・成果(アウトカム)を示す指標。
- \*2 アカウンタビリティ  
道路行政における「透明性確保」のための説明責任、説明義務。

### マネジメントにおける3つの柱(主旨)

- 1 年度毎のマネジメントサイクルの確立**  
事前に数値目標を立て、事後の達成度評価による結果を、以後の行政運営に反映するしくみを確立します。
- 2 わかりやすさと実現性の両立**  
道路利用者にとってのわかりやすさと、実際の行政運営に反映可能な実現性を両立します。
- 3 国民と行政とのパートナーシップの確立**  
数値目標やその達成度を公開し、道路マネジメントへの国民の参画を図ることでパートナーシップを確立します。

### 実践のための4つの戦略

- 1 目標と指標の設定**  
政策目標ごとにアウトカム指標を設定します。
- 2 効率的なデータ収集**  
指標による政策評価に必要な交通量などのデータ収集を毎年効率的に行うシステムを構築します。
- 3 毎年度の業績計画の策定及び達成度の把握**  
毎年度、数値目標を設定し、達成度を評価します。
- 4 アカウンタビリティの推進**  
毎年度、数値目標や、その達成度等を「業績計画書」及び「達成度報告書」として公表します。

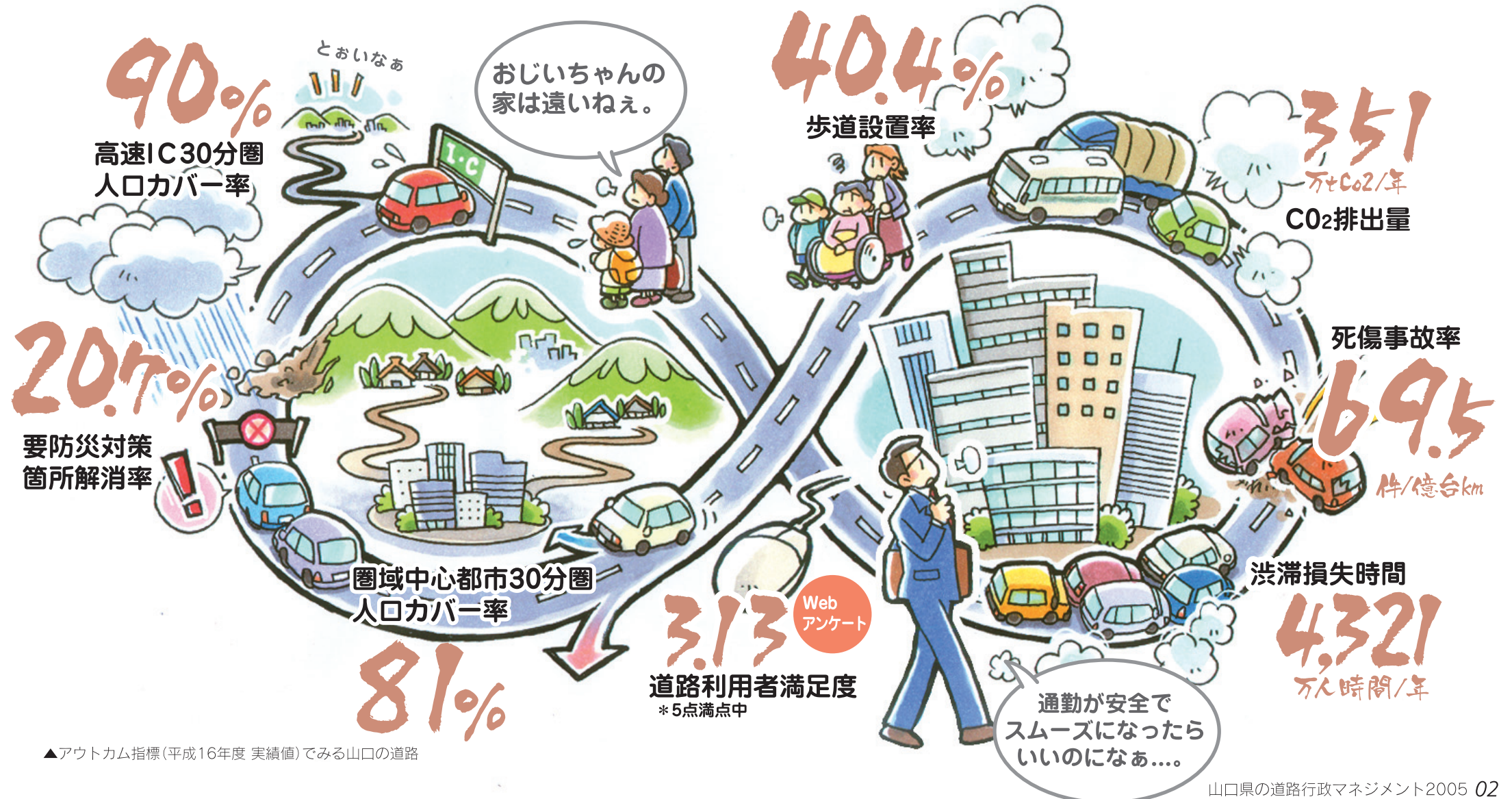


▲全国における道路行政マネジメント

# 道路に関する諸問題を数値で表すことで、道路の現状と改善の目標を明らかにします。

## アウトカム指標とは

例えば山口県における渋滞の課題を「渋滞損失時間」というアウトカム指標で表すと、年間4,321万人時間(一人当たり29時間)が失われていることになります。『山口県の業績計画書』においては、平成19年までに、これを年間4,104万人時間(一人当たり27時間)に削減することを目標としています。このように、本計画書では従来わかりにくかった事業目標を、アウトカム指標として数値化して示すことで、よりわかりやすいものとする工夫をしています。



▲アウトカム指標(平成16年度実績値)でみる山口の道路

# 平成16年度の達成度報告

5つのアウトカム指標について平成16年度目標値を達成しました

平成16年度は、5つのアウトカム指標について平成16年度の目標を達成することができました。一方、「要防災対策箇所解消率」については、平成16年度の目標値を達成することができませんでした。

政策テーマ	アウトカム指標	平成15年度実績値	平成16年度		平成19年度目標値	評価
			目標値	実績値		
みちづくり 広域交流を進める	①空港1時間圏人口カバー率 空港まで1時間以内でアクセス可能な地域に住んでいる人の割合。	62%	—	62%	63%	—
	②新幹線駅30分圏人口カバー率 新幹線駅まで30分以内で到達可能な地域に住んでいる人の割合。	70%	—	70%	71%	—
	③中枢都市2時間圏人口カバー率 中枢都市である広島市または福岡市まで、2時間以内で到達可能な地域に住んでいる人の割合。	77%	—	77%	78%	—
	④高速IC30分圏人口カバー率 高速道路のインターチェンジまで、30分以内でアクセス可能な地域に住んでいる人の割合。	90%	—	90%	94%	—
みちづくり 地域の自活を支える	⑤渋滞損失金額 渋滞のない場合の所要時間と実際の所要時間の差(損失時間)を費用換算したもので、渋滞の実態を数量的に表したものの。	※1 1,390 億円/年	1,389 億円/年 (0.1%削減)	1,317 億円/年 (5.3%削減)	1,251 億円/年 (10%削減)	達成
	⑥工業団地ルートからICへの流通ルート確保率 ICとの流通ルートが二車線以上の道路で結ばれている工業団地の割合。	84.8%	86.1%	86.1%	86.1%	達成
	⑦隣接市町村間連絡ルート確保率 「山口県の新しい道路整備計画」において位置付けられている市町村間連絡ルートを対象に、二車線以上で結ばれている市町村(平成16年6月時点)の割合。	68.6%	68.6%	70.2%	77.0%	達成
	⑧要防災対策箇所解消率 平成8年道路防災点検において要防災対策箇所として指定を受けた箇所数の解消割合	19.6%	21.0%	20.7%	向上に努める	未達成
みちづくり 人と自然を大切に する	⑨CO <sub>2</sub> 排出量(自動車交通) ※2 ガソリン消費、軽油消費、LPG消費を足し合わせたもの。	※3 320 万t-CO <sub>2</sub> /年	削減に努める	※4 351 万t-CO <sub>2</sub> /年	300 万t-CO <sub>2</sub> /年	国道2号花岡拡幅の供用等により削減に努めています
	⑩歩道設置率 県道以上の総延長に対する歩道設置延長の割合。	39.8%	40.2%	40.4%	42.0%	達成
	⑪事故率 交通量および延長(走行台キロ)に対する事故件数の多さを表現したもの。	102.6 件/億台km	削減に努める	99.9 件/億台km	削減に努める	達成

※1 平成15年度プローブデータ(通信により収集される車両の位置、速度等の情報)をもとに最算定  
 ※2 山口県環境白書における公表値  
 ※3 平成11年実績値  
 ※4 平成13年実績値(最新公表データ)

# 平成17年度の業績計画

数値設定により施策・事業の目標と進捗を明確化にします

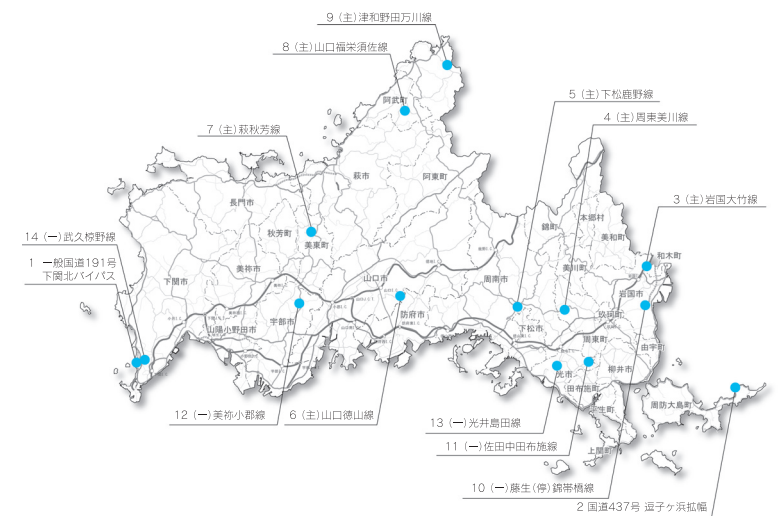
過年度実績値および平成19年度目標値を踏まえ、事業推進状況や今後の事業計画等をもとに、平成17年度の目標値を設定しました。また、これまで一部を共有していた「山口県の道路整備計画(JOY ROAD PLAN)」と「平成16年度山口県業績計画書」のアウトカム指標の統合と体系化(4つの政策テーマに応じた8つの代表指標等を抽出)を図りました。

政策テーマ	アウトカム指標(代表指標)	実績値		目標値	
		H.15	H.16	H.17	H.19
みちづくり 広域交流を進める	①高速IC30分圏人口カバー率	90%	90%	90%	94%
みちづくり 地域の自活を支える	②渋滞損失時間	4,560 万人時間/年 ※1	4,321 万人時間/年 (5.2%削減)	4,294 万人時間/年 (5.8%削減)	4,104 万人時間/年 (10%削減)
	③圏域中心都市30分圏人口カバー率	81%	81%	81%	82%
	④要防災対策箇所解消率	19.6%	20.7%	22.6%	向上に努める
みちづくり 人と自然を大切に する	⑤死傷事故率	70.7 件/億台km	69.5 件/億台km ※2	削減に努める	削減に努める
	⑥歩道設置率	39.8%	40.4%	40.8%	42.0%
みちづくり 県民参加の まちづくり	⑦CO <sub>2</sub> 排出量(自動車交通) ※3	320 万t-CO <sub>2</sub> /年 ※4	351 万t-CO <sub>2</sub> /年 ※5	削減に努める	300 万t-CO <sub>2</sub> /年
	⑧道路利用者満足度 ※6	3.05	3.13	向上に努める	向上に努める

※1 平成15年度プローブデータ(車載器からモバイルデータ通信により収集される車両の位置、速度等の情報)をもとに再算定  
 ※2 平成16年度暫定値  
 ※3 山口県環境白書における公表値  
 ※4 平成11年実績値  
 ※5 平成13年実績値(最新公表データ)  
 ※6 平成15年度及び平成16年度道路利用者満足度調査(国土交通省道路局)をもとに再設定。

## 平成17年度 供用予定事業

No.	路線名	箇所名	計画延長	H17供用延長
1	一般国道191号 下関北バイパス	下関市筋川町~安岡駅前二丁目	6,800m	1,100m
2	国道437号 逗子ヶ浜拡幅	周防大島町伊保田	3,000m	1,400m
3	(主)岩国大竹線	岩国市関戸~和木町関ヶ浜	3,000m	3,000m
4	(主)周東美川線	周東町郷上	200m	200m
5	(主)下松鹿野線	周南市須々万	1,200m	1,200m
6	(主)山口徳山線	山口市穂畑	1,700m	300m
7	(主)萩秋芳線	美東町銭谷	600m	200m
8	(主)山口福栄須佐線	阿武町飯谷	700m	400m
9	(主)津和野田万川線	萩市上組	700m	700m
10	(一)藤生(伊)錦帯橋線	岩国市海土路~御庄	3,700m	3,700m
11	(一)佐田中田布施線	光市佐田	1,500m	100m
12	(一)美祢小郡線	宇部市上小野	250m	200m
13	(一)光井島田線	光市島田	1,000m	500m
14	(一)武久松野線	下関市武久町	1,600m	500m



# ひと目でわかる2005の業績計画

平成17年度の業績目標と目標達成に向けた取り組みを紹介します

※平成19年までの目標は4ページを参照。

- 広域交流を進めるみちづくり
- 地域の自活を支えるみちづくり
- 人と自然を大切にすみちづくり
- 県民参加のみちづくり



## 1 山口県に住むどれくらいの人が、快適に高速道路にアクセスできるか？ 高速IC30分圏人口カバー率

山陰地域の多くは、高速ICまでの移動に30分以上を要し、広域交流の促進や地場産業の活性化の課題となっています。陰陽を結ぶ道路ネットワークの強化を図るため、「山陰自動車道」の延伸や「地域高規格道路 小郡萩道路」等の整備を推進しています。

【平成17年度の主な取り組み】

- ・国道191号 萩・三隅道路の整備推進
- ・地域高規格道路 小郡萩道路の整備推進

実績値：H.16

90%



目標値：H.17

90%



## 2 渋滞によって、どのくらいの損失があるのか？ 渋滞損失時間

山口県内の渋滞による損失を時間で表すと、年間4,321万人時間になります。これは、県民一人あたり約29時間をロスしていることになります。渋滞の緩和・解消に向け、バイパスの整備や現道拡幅、交差点の立体化等の道路整備を推進しています。また、交通需要マネジメント(TDM)※1等による交通負荷の低減に取り組んでいます。

【平成17年度の主な取り組み】

- ・国道191号下関北バイパス部分供用(L=1.1km)
- ・県道藤生停車場錦帯橋線(平田バイパス)全線供用(L=3.7km)

実績値：H.16

4,321

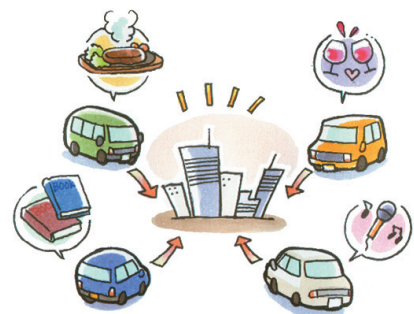
万人時間/年



目標値：H.17

4,294

万人時間/年



## 3 どれだけの人がまちの中心に快適にアクセスできるか？ 圏域中心都市30分圏人口カバー率

山口県には中規模の都市が点在しており、8つの広域生活圏からなる分散型の都市構造を形成しています。合併により広域化する市町村の一体性を高める道路整備が望まれています。中山間地域の連携強化や日常的な利便性・安全性の向上に向け、市町村合併支援道路※2等の整備を推進しています。

【平成17年度の主な取り組み】

- ・国道2号 厚狭・増生バイパスの整備推進
- ・国道376号 須々万バイパスの整備推進

実績値：H.16

81%



目標値：H.17

81%



## 4 要防災対策箇所はどのくらい解消されているのか？ 要防災対策箇所解消率

平成17年度は度重なる台風の上陸などにより、崩落や倒木などの道路災害が数多く発生しました。安全性の向上を図るため、自然災害の危険性の高い「要防災対策箇所」について、法面補強工事や代替路線の整備等を進めています。

【平成17年度の主な取り組み】

- ・国道191号(萩市鎖峠)法面工事
- ・県道岩国玖珂線(玖珂町欽明路)法面工事

実績値：H.16

20.7%



目標値：H.17

22.6%

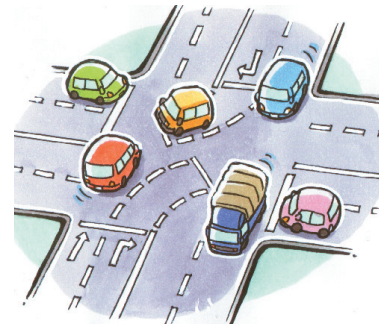
※1 交通需要マネジメント(TDM)  
パークアンドライドやノーマイカーの実施など車の利用者の交通行動の変更を促すことにより、都市または地域レベルの交通渋滞を緩和する交通施策です。

※2 市町村合併支援道路  
新市町村内の公共施設等の拠点を連絡する道路・街路などについて、短期間で整備が図られるよう優先採択・重点投資を行うことにより、合併市町村の一体化の促進を図ることを目的としたものです。

※3 事故危険箇所  
10年に1度以上の確率で死亡事故が発生する恐れの高い箇所、または、幹線道路の平均事故率の5倍以上の確率で事故が発生する箇所を「事故危険箇所」として指定し、都道府県公安委員会と道路管理者が連携して集中的な死傷事故抑止対策を講じています。

※4 あんしん歩行エリア  
歩行者及び自転車利用者の安全な通行を確保するために緊急に対策を講ずる必要があると認められる住居地区又は商業地区内の人身事故発生件数が、1km<sup>2</sup>当たり年間42件以上で、概ね100~200ヘクタールの区域を「あんしん歩行エリア」として指定し、都道府県公安委員会と道路管理者が連携して、面的かつ総合的な死傷事故抑止対策を講じています。

※5 交通バリアフリー法  
高齢者、身体障害者、妊産婦などの公共交通機関を利用した移動の利便性及び安全性を向上するため、旅客施設を中心とした一定の地区において市町村が作成する基本構想に基づいて、公共交通機関や歩道ネットワークのバリアフリー化を推進することを定めた法律です。



## 5 死傷事故が引き起こされる割合は？ 死傷事故率

死傷事故の約4割は交差点付近で発生しています。また、高齢者の事故死者が全事故死者の約4割を占めています。事故の削減に向けて、「事故危険箇所」※3や、「あんしん歩行エリア」※4における安全対策を進めています。

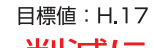
【平成17年度の主な取り組み】

- ・安心歩行エリアの整備(山口市亀山地区)
- ・事故危険箇所の対策(国道2号周南市花島町)

実績値：H.16

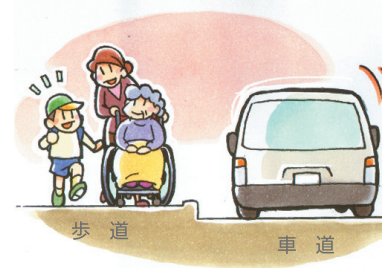
69.5

件/億台km



目標値：H.17

削減に努めます。



## 6 歩行者が安全に通ることのできる道路の割合は？ 歩道設置率

市街地や通学路における歩道整備や主要な旅客施設周辺のバリアフリー化が課題となっています。歩行者の安全性向上に向け、歩道の設置やペイントによる歩行者と自転車の視覚的な分離を行っています。また、交通バリアフリー法※5に基づき、主要旅客施設周辺の歩道ネットワークのバリアフリー化を推進しています。

【平成17年度の主な取り組み】

- ・県道光玖珂線 歩道整備(玖珂郡周東町千束)
- ・県道山口阿知須宇部線(山口市阿知須町浜区~宇部市東岐波)

実績値：H.16

40.4%



目標値：H.17

40.8%



## 7 山口県の道路ではどの程度のCO<sub>2</sub>が排出されているか？ CO<sub>2</sub>排出量(自動車交通)

日本のCO<sub>2</sub>排出量の約2割を運輸部門が占め、そのうちの約9割が自動車交通によるものです。自動車のCO<sub>2</sub>排出量は、走行速度の低下とともに増加する傾向があり、都市部の渋滞が大きな発生要因となっています。CO<sub>2</sub>排出量の削減に向け、都市部の交通円滑化のための道路整備を進めています。

※平成16年山口県環境白書において公表された平成13年値(351万t-CO<sub>2</sub>/年)を表記しています。

実績値：H.16

351

万t-CO<sub>2</sub>/年



目標値：H.17

削減に努めます。



## 8 身近な道路に対して、どのくらいの人が満足しているか？ 道路利用者満足度

アンケート調査によると、山口県の「よく使う道路全般に対する満足度」は全国で最も高い一方で、「最近、道路行政は変わってきているか」との問いに対する満足度は23位と平均的な評価になっています。ニーズの反映やさらなる透明性の向上に向け、利用者とのコミュニケーションや、事業の適正な評価を推進しています。

【平成17年度の主な取り組み】

- ・ボランティアロードでの活動
- ・事業評価の推進
- ・ロードセーフティステーション等からの情報収集

実績値：H.16

3.13/5点



目標値：H.17

向上に努めます。